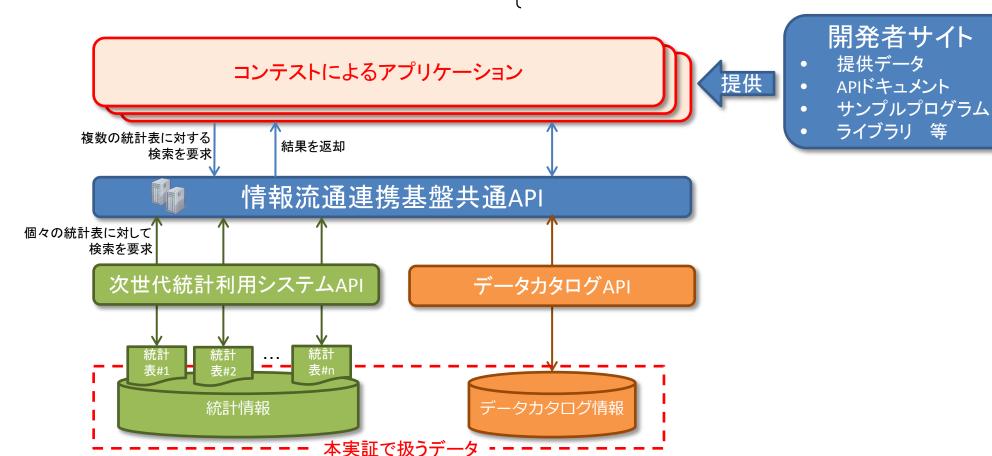
## 平成25年度オープンデータ実証実験 統計情報・データカタログ実証(概要)

- オープンデータの利活用ニーズが高いと想定される、<u>統計情報(次世代統計利用システムで提供されてるもの)や政府データカタログサイト(試行版)と情報流通連携基盤システムを接続し、両者の連携可能性を実証</u>する。
- これにより、<u>次世代統計利用システムや政府データカタログサイト(試行版)が提供するデータと他のデータとをマッシュアッ</u>プが可能となる環境を実現する。
- また、統計情報については、従来は統計表ごとに検索していた、複数の統計表に対する統計情報検索を、情報流通連携基盤共通APIを1回呼び出すことで実現させることにより、統計情報の取得を簡素化することを目指す。

実施主体: 株式会社横須賀テレコムリサーチパーク

連携主体: 内閣官房、総務省統計局、独立行政法人統計センター



## 平成25年度オープンデータ実証実験 統計情報・データカタログ実証(成果)

- (独)統計センターが運用する次世代統計システムにより公開されている統計データや、政府データカタログサイト試作版 「DATA.GO.JP」を活用して、API連携の有効性を実証。
- 具体的には、国勢調査小地域集計のデータ等をRDF化し、複数の統計表にまたがる検索を一度のクエリで実行可能とする とともに、政府データカタログサイト試行版「DATA.GO.JP」に格納されているメタデータに対して、(1)複数の条件で検索を行い、 (2) 検索結果から特定の項目のみを取得する、というような高度なクエリを発行。
- 実証の結果、国際標準に基づいたボキャブラリを利用して統計情報やデータカタログサイトのメタデータをRDF化し、情報流 通連携基盤のSPARQLベースAPIにより提供することの有用性が示された。一方、より高度な検索のため、データカタログサイ トに掲載されているデータ自体のRDF化は今後の課題。
- データ本体とメタデータの両方を横断検索できるSPARQLベースのAPIを提供
- ▶ 次世代統計システムにより公開されている統計データのうち、利用ニーズの高い下記データを提供
  - ○国勢調査小地域集計のデータ

65歳以上親族のみの一般世帯数、世帯の家族類型別一般世帯数、住宅の建て方別世帯数、住宅の種類・所有の関係 別一般世帯数、在学学校・未就学の種類別在学者数、従業上の地位別就業者数、男女別人口総数及び世帯総数等

○国勢調査地域メッシュ統計のデータ

男女別人口総数及び世帯総数の500mメッシュ、1kmメッシュ情報

- ⇒ 利用者は、複数の統計表にまたがるデータを一度のクエリで横断的に取得可能。
- ⇒ 他のデータ(都道府県・市区町村LODなど)との連携も可能。
- ▶ 政府データカタログサイト試作版「DATA.GO.JP」に登録されているメタデータも検索可能
- ▶ 膨大なデータを提供(統計情報・データカタログの合計)
  - 総データサイズ: 46GB / RDFトリプル総数: 7.7億件
- 国際標準に基づくボキャブラリを整備
- ▶ 統計データ用ボキャブラリのベースとして、 RDF Data Cube Vocabulary(QB)を採用
- データカタログ用ボキャブラリのベースとして、 Data Catalog Vocabulary(DCAT)を採用
- オープンデータ・アプリコンテスト参加者等からの高評価
- ➤ 国際標準RDF Data Cube Vocabularyに準拠していることがよい。
- ▶ 数ある統計データの中から、有用性の高い小地域集計データを選択したことに評価。

都道府県・市区町村LOD(統計センター提供)と 小地域集計データ(本実証提供)との連携例



出典:オープンデータ・アプリコンテスト佳作受賞作品

odStatViewer(東京国際大学佐藤研究室)